

県議会議会の報告

1 果樹政策について

質問 1 平成23年度、温州みかんは表年となるなど、柑橘においては厳しい販売環境が見込まれる中、新たな愛媛県果樹農業振興計画の実践初年度として、柑橘の需要に応じた品種対策と生産流通基盤の再構築についてどのように取り組まれるのか。

回答 佐伯満孝農林水産部長

年間を通じて旬の果実を周年供給できる体制を構築するために、以下3つの品種を設定して、高品質生産を図るための生産流通基盤を推進する。
1. 本県の柑橘の顔として定着をさせていく温州みかん、せとか等の基幹品種
2. 紅まどんな、甘平等、改植により生産を拡大していく戦略品種
3. 地域独自の取り組みにより特徴を持たせた販売を推進していくブラッドオレンジ等の地域特産品種

質問 2 県産柑橘の輸出促進に向けた取り組みについては、海外での風評被害が広がる中、県産柑橘の輸出促進にどう取り組んでいかれるのか。

回答 佐伯満孝農林水産部長

6月補正予算を計上し、現地商社等と連携した販売プロモーション活動を行い、海外の消費者に直接、安全をアピールするために、現地の百貨店でイベントを実施する。また、台湾、香港の現地テレビ関係者を本県に招聘して、現地を取材してもらい安全性をPRする。

2 防災教育について

●私たちは、東日本大震災に学び、「想定外」の大震災に耐えることのできる多くの準備が今すぐにも必要である。

質問 1 学校における防災教育の実態と今後どのように取り組んでいくのか。

回答 藤岡澄教育長

① 実態に即した学校安全計画や独自の危機管理マニュアルを作成する。
② 地域の自主防災組織等と連携して、効果的、実践的な避難訓練を行う。
③ 東日本大震災から
・チェックリストを示し、安全管理の徹底、避難経路の再点検を学校に要請。
・総合危機管理研修を開催する。(講演・協議・情報交換等で内容の共有)
・今後の更なる取り組み
　　ア、被災地支援派遣教員の活用
　　イ、新聞記事の活用

質問 2 県民に対する防災の意識啓発に現在どのように取り組んでいるのか。

回答 上甲俊史県民環境部長

昭和南海地震が発生した12月21日を「えひめ防災の日」、12月17日から23までの1週間を「えひめ防災週間」と定め、模擬災害体験や市町の要請に応じ県内各地に出向き講演等、各種の行事を行い県民の防災意識の向上に努めている。



電気自動車視察



自民党成年局長 小泉進次郎議員と自民党再構に
向けての意見交換会



街頭演説

3 知事が参加している「首長連合」について

質問 1 県と市町が連携し、また、住民と一緒にやって行う地域づくりに今後どのように取り組まれるか。

回答 中村時広知事

① 本年度からは、企画進行部に地域性各課を新設し再編に合わせて政策機能を強化した地方局とも連携して、地域振興背策を総合的かつ一体的に進める体制を整備する。
② 「やってあげる」から「一緒にやる、やらせていただく」という基本姿勢の浸透を図る。
③ 地方局の農業普及指導員等の現場職員の活動を一層後押しする。
④ 市町との連携、協力を強化しながら地域の個性と主体性を尊重した地域づくりを推進する。

4 地元主要道路について

県道上分三島線は、上分と三島中央を結ぶ市の重要路線であるが、道路幅員が狭く、場所によって歩道も未整備の所がほとんどである。朝夕のラッシュ時には通勤する車や通学の自転車にとっては大変危険な状態である。また、危険な県道上分線ではあるが、災害時には重要な道路として活用しなければならない道路となっている。

質問 1 今後、東南海・南海地震の発生の恐れのある中で、「県道上分三島線」の現状をどう把握し、安心・安全な整備にどう取り組んでいくのか。

回答 井上要土木部長

この道路は、平行する国道11号線を補完するとともに、地域の生活道路として欠かせない道路であり、改良率は72%まで上がっているが、さらに当路線の整備を進める必要はあると認識しており、現在2箇所で事業を行っている。昨年度から調査設計に着手している市役所から市道中曾根三島港線までの区間の地域の安全・安心を確保するため、早期解消を図る必要がある。今年度は引き続き地元調整や測量設計を行い、来年度から本格的な事業展開ができるよう、今後とも地元四国中央市と連携しながら積極的に取り組んでいく。

5 県立特別学校の再編整備について

今年4月には、今治特別支援学校新居浜分校を本校として「新居浜特別支援学校」とするなど、本県の特別支援学校教育の充実に向けて成果を上げている。しかし、同じ敷地内(松山)に聴覚障害と知的障害という複数の障害を対象とした教育の場を設けることは、専門性の確保や質の低下を招くことにはならないか。

質問 1 平成24年度の松山聴学校への知的障害高等部の設置に向けた現在の状況と方針についてお聞かせ願いたい。

回答 藤岡澄教育長

PTAや同窓会と話し合い、関係者の意見を踏まえて来年度設置に向けて準備を進めている。聴覚、知的の障害別にフロアを分けて教室を配置するほか、施設整備を行い落ち着いた教育環境や安全性を確保したいと考えている。障害に応じた適切な教員配置。専門的知識を生かした合同研修の実施等を通じて専門性を生かした指導の充実を図り、聴覚障害、知的障害のいずれの教育にも有益となるよう努めたい。



中村新知事が推し進める愛顔(えがお)あふれる愛媛県づくりを強力にバックアップ致します。